

## 「虎の山よに靠るに似たり」

広島県 萬福寺 高橋道英

新年にあたり、皆さまのご健勝をお祈り申し上げます。皆さまにおかれましては、コロナ禍、不自由な生活が続いていることと思います。中には静かなお正月を迎えられた方も、あるかもしれません。それぞれに、いろいろなことがあったかと思いますが、こうして新しい年を迎えることができたのは、ありがたいことだと感じます。

お正月といえば、十年前に、辰年生まれの私にとって四度目の「辰年」記念にと、懇意の御老師にお軸を書いていただきました。

「辰(龍)」に因み「如龍得水(龍の水を得るが如く)」というお言葉を賜り、お陰でお正月に床の間に掛けることが出来ました。これは坐禅の心得を説いた祖録(『普勸坐禅儀』)の言葉で「虎靠山似(虎の山よに靠るに似たり)」と続き、対句となっています。

そしてそれから10年後の寅年を迎える年に、この「寅(虎)」の対句をどなたかに書いて頂こう、と思案しておりました。

ご本山のような修行道場では、修行僧が、老師方に教えを乞う問答の儀式(小参)があります。ご本山で執り行われたその儀式に参じた際、とある御老師が修行僧たちに問答を答えられる様子を拝見し、「こんなにも親切で丁寧に導いて頂けるのか」と驚き感激し、ぜひこの方に「寅(虎)」のお軸をお願いしようと、直接御老師のお寺に伺いました。

「いつになるか、わからんぞ」といわれながらもお受けいただき、待つこと二年、再度「できれば新年を御老師のお軸で迎えたいので」とお願いし、ようやく床の間に掛けることができたのです。

『龍の水を得るが如く、虎の山よに靠るに似たり』。これは、龍が水を得たように、虎が山に放たれたように、真実の生命が、生き生きとしている様子のこと、すなわち、坐禅のことなのです。

私たちの日々の生活は、いろいろな思いがはたらいています。しかし、その思いに固執すると、それが自分自身を苦しめることになってしまいます。そこで、一度その思いを手放してしまえば、自身の生命いのちは生き生きとするのです。

コロナ禍、こういう時だからこそ、静かに坐禅して、私の生命いのち、真実の生命いのちを見つめてみませんか？